ウイルス性肝炎患者様の歯科診療に関して

ウイルス性肝炎患者様から、歯科処置に対しての質問を受けることがあります。現在の医療・歯科治療に際しての器具滅菌消毒基準においてウイルスは不活化されます。また、感染対策の基本である標準予防策(Standard Precautions)を実践すれば、感染は生じません。標準予防策とは、あらゆる患者の血液・体液は感染性のあるものとみなし、①使用した器具は消毒滅菌もしくは廃棄する。②診療従事者は血液や体液の直接曝露を防ぐために手袋、マスク、ゴーグルなどを着用する。等の基本ルールを遵守することです。肝炎ウイルス感染は国民の最大の感染症であり、B型あるいはC型肝炎ウイルスに感染している方は全国で300万人以上と推定されております。現在、当センターにおいても啓発活動を行っておりますが、本人が肝炎ウイルスに罹患しているとわからずに、歯科治療を受けている場合も含まれていることが予想されます。そのため、的確な滅菌消毒や標準予防策を講じる必要があります。肝炎患者様の受診を制限することはあってはいけないことと認識しております。2016年10月より乳児に対するB型肝炎ワクチンの定期接種が開始されました。医療従事者であれば上記予防策のひとつで、就業前にワクチンを接種されていると考えますが、ご自身の抗体価なども含めて不安な方の相談についてもお受けしますため肝疾患相談センターまでお問い合わせください。

肝疾患相談センター

025-223-6192